

# J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 11月号

## 1. 広域あんぼ柿加工施設開所式

J A 鳥取いなば広域あんぼ柿加工施設で、特産の柿「西条」を使った「あんぼ柿」の加工施設開所式を10月12日に開いた。

同 J A では、J A 自己改革で掲げる生産者の所得増大を目指し、管内の選果場で選別された柿を「あんぼ柿」に加工することで付加価値を付け、有利販売につなげている。

加工作業は11月末まで続き、この季節を代表とする人気の商品として東京・大阪・京都・広島などに出荷している。



## 2. 新規採用職員稲刈り体験 J A 職員としての資質向上へ

J A 鳥取いなばは10月15日に鳥取市里仁の圃場で令和3年度新規採用職員を対象に、今年6月に植えたもち米「ハリマモチ」の稲刈り体験研修を開いた。同 J A 職員や、地域の生産者らで組織する松保地区むらづくり会議などが協力した。

この取り組みは平成19年から実施しており、農業・食の重要性を学ぶとともに、より農業・組合員の方々を身近に感じることで、J A 職員としての資質向上を図ることを目的としている。



## 3. “鳥取市の花” 小学校へ らっきょうをPR

鳥取砂丘らっきょうの魅力アップを図る「未来へつなぐらっきょう将来ビジョン研究会」は10月18日、鳥取市立浜坂小学校の5年生104人にらっきょうの生産などを紹介し、プランター4箱分のらっきょうの花を贈呈した。

同市の花に制定されたらっきょうをPRするため、福部町の若手らっきょう生産者が平成28年度から市内全44小学校へ贈呈を計画。昨年で完了したが、本年度以降もPRにらっきょうの花を届けていく。



#### 4. 2年ぶり鳥取しゃんしゃん祭

J A鳥取いなばは10月31日、鳥取市のヤマタスポーツパークで「第57回鳥取しゃんしゃん祭」の一斉傘踊りに参加した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2年ぶりの開催となり、J A職員52人（踊り子36人、運営スタッフ16人）が参加し、会場内に鮮やかな傘の花を咲かせ、鳥取市の風物詩を盛り上げた。



以上